

ハートで語ろう！ふらっとミーティング対話記録

日時 平成21年8月26日 19時～

会場 大滝体育館

1 出席者

市民70人、市長、副市長、教育長、市長室長、総務部長、財務部長、大滝総合支所長、すぐやる担当、事務局

2 対話記録要旨

Q：猟友会、老人クラブ等の団体の事務を、総合支所の職員が行ってくれないか。

A：市が補助する団体の事務を職員が行うことは、二重補助の可能性もあり、原則的にはできません。高齢化の進んでいる大滝地区の事情はよくわかったので、事務に精通したシルバー人材センターの人や、市職員のOB等を活用できないか検討していきます。

Q：鳥獣被害、特にイノシシによる被害がひどい。豚に近い動物なので、豚のえさを蒔いて、市の協力で夜間に一網打尽に捕獲できないか。

A：鳥獣被害の大きさを認識し、県と協力して被害防止の努力を続けています。このほど設立された秩父地域鳥獣害対策協議会に、被害に遭っている市民の方の声を伝えるとともに、より強力な対抗策を講じていきます。

Q：上中尾区の選挙用ポスター掲示板の配置場所が、アンバランスで集落から離れているが、どうにかならないか。

A：掲示板の設置に適した場所がなかったのかもしれませんが、担当する選挙管理委員会が後日調査に伺います。

Q：観光名所である、大滝温泉、秩父湖、栃本関所跡の誘導看板が少ないので、よく行き方を聞かれる。沿道に誘導看板を設置できないか。

A：大滝総合支所や（株）源流郷おおたきと相談し、現地調査をしながら対応を検討していきます。

Q：上中尾小学校跡地では、草がのび放題である。きちんと管理をしてほしい。

A：大滝総合支所の担当者をもとに行かせ、草刈等の対策を講じます。

Q：大滝トンネルが完成したら、大滝地区はどう変わるか教えてほしい。

A：トンネルができるとアクセス時間が短縮できます。大滝地区に住んでいても、市内や周辺部への通勤時間が短縮でき、人口流出の防止につながります。また、東

京からの観光客も利便性が高まり、集客の増加が期待できます。

Q：森林セラピーを行うとの話だが、大滝地区の森林活用にも期待できるのか。

A：森林の活用を目的のひとつに、秩父地域森林整備推進協議会がこのほど立ち上がりました。大滝の森林については、森林セラピーの活用を含め検討していきます。

Q：大中橋をもっと幅広の橋に架け替えてほしい。また、行き止まりとなっている市道栃本13号線を、道路につなげてほしい。

A：担当に現場調査をさせます。その結果により検討していきます。

Q：子どもたちの減少により大滝小学校が閉校となったなら、老人ホームを設置してほしい。

A：大滝小学校の統合は、現状で考えていません。しかしながら、児童数が減ること
で教員数が減る可能性はあります。

Q：子どもの教育は地区の活性化につながる。教育については、どういう思いがあるのか。

A：子どもたちは、風土や地域で培ったものが力となります。総合的な力をつけていくことが、教育の向上に結びつくと思います。体力、学力、創造力をつける教育が大切だと思います。

Q：大滝地区には、合併に反対した人もいるので、役場が総合支所となっても、市民が行きやすい雰囲気を作ることが大切だ。そのためにも、あと5年くらいは、旧大滝村職員を多く総合支所に配置し、同様に総合支所長も出身者としてほしい。また、予算も削除されていくと、総合支所が縮小されるのでないか、と懸念する気持ちになる。

A：総合支所管内の業務を円滑にするために、旧町村職員を置きたい気持ちはあります。また、総合支所の権限強化の一環として、総合支所管内で話し合っ
て有効に使うことができる資金を、総合支所費に設けるような仕組みを、現在検討しています。